

# 令和6年度 第1回伊那北高等学校評議員懇談会報告

学校評議員運営委員会

- |     |      |  |                 |
|-----|------|--|-----------------|
| I   | 日時   | 令和6年7月8日(月)  | 15:30~17:00     |
| II  | 会場   | 高志館1階研修室   |                 |
| III | 出席者  | 〔評議員〕 有賀 泰司(義務教育関係) 平松 浩二(大学関係)<br>傳田 智子(上伊那広域連合) 柴 茂(自治会関係)<br>松井 秀之(企業関係) 岩崎 靖(同窓会関係)<br>古藤 祐巳子(保護者) |                 |
|     | 〔職員〕 | 校長 教頭 事務長 齋藤(教務) 桐生(進路・学校評価)<br>半場(生徒指導) 瀬戸(特別支援) 黒岩(CPA 欠席)<br>松村(PTA) 西澤(職場代表)                       |                 |
| IV  | 次第   | (司会:教頭)  |                 |
|     | 1    | 委嘱状交付  |                 |
|     | 2    | 学校長挨拶  |                 |
|     | 3    | 本校の概況について  |                 |
|     |      | (1) 学習、進路指導(桐生)  | (2) 生徒指導(半場)    |
|     |      | (3) 特別支援教育(瀬戸)   | (4) 学校評価(桐生・齋藤) |
|     |      | (5) CPA(桐生)  | (6) PTA(松村)     |
|     |      | (7) その他(千葉)  |                 |
|     | 4    | 意見交換   |                 |
|     | 5    | 学校長挨拶  |                 |

## 1 意見交換で出された質問・意見等のまとめ

### (1) 学校教育全般について

- 卒業生が、教員になり部活動の指導者として頑張っている姿を誇らしく感じた。中学校では部活動をやる生徒が少なくなっていると同時に、部活動の地域移行が進んできているが、高校の状況はいかがか。
  - 部活動の地域移行は県全体の課題ととらえているが、特に高校は私立高校の存在もあり難しい。いずれは地域とともにというのが理想ではある。
- 教員不足が様々な校種で指摘されているが、高校の状況はいかがか。
  - 高等学校に関しては、県全体で4名ほど欠員が生じている。産育休の制度の充実、取得率の向上など進めていくべきであるが、その際にも代替の講師を確保することが難しいという実態がある。
- ペン祭を二日間にわたり見学させてもらった。限られた短い準備期間の中でよくぞここまでという印象をもち感心した。
- いろいろな日々のクレームへの対応について、地区としても、一緒に考えていきたい。

## (2) 学習・進路指導について

- 総合型選抜においては、どのようなことが評価されるのか。
  - 共通テストが課される大学であれば学力の担保は必要 + 総探（課題探究）等。  
学力 + その大学に進学したい意欲やアピール。  
共通テスト利用の有無の違いはあるが、何かを極め入試に臨んでいくもの（金沢大学を例に挙げ説明）。
- 年内入試で進路決定をする生徒が増加していく中で、生徒間の温度差（進路決定者、未決定者）をどう埋めていったらよいと考えるか。
  - 進路が決定した生徒たちへのアフターケア（指導）が必要と考えている。教職員が適切な指導をしていくことが重要であり、それができていけば温度差が大きくなるということもないのではないかと。
- 総合型選抜利用の増加は、とらえ方が難しい。信大に後期選抜で入学してくる学生にも優秀な学生はいる。ただ、コロナ禍やスマホが関わっているのかもしれないが、「一人で」「友達付き合いもなく」が多く、コミュニケーションの「かたまり」は小さくなってきている。伊那北校生のコミュニケーション能力に関する実態は。
  - 学校の教育活動としては、授業におけるグループワーク、SST、総合的な探究の時間などコミュニケーション能力の向上が期待できる活動は増えてきており、良い方向に作用していると感じている。  
一方で、生徒はSNSを連絡手段として活用し、対面で話合いをする様子があまり見られない現状もある。
- 推薦入試に臨んでいくにあたり、生徒の活動や思いが重視される部分があると思うが、地域として何か役に立てることがあるか。
  - 学校と様々なところをつないでもらえるコーディネーターがいてもらえるとありがたい。  
それが職員の働き方改革にもつながる。  
弥生も上伊那広域連合と関わりがあり、統合後も両校が地域を大事にしていることは利点。
- 地域の大人の願いやニーズに、子どもたちを引っ張り込みすぎないようにしたい。生徒の自発的な思いを、地域サイドが支えられるようにしたいと考えているため、今後も忌憚のない意見を寄せてほしい。
- 授業を見学して、「探究」は伊那北の武器と感じた。中学校でも真似したい。4人で机を合わせる授業風景は新鮮に感じた。中学校ではなかなか実践できていない。
- 子どもたちが進路実現を図りながらも、いずれは地元に戻ってきてくれると嬉しい。

## (3) 生徒指導及び基本的な生活習慣について

- 子どもの教育に関して、コミュニケーション能力の向上やSNS・マスコミへの対応力（情報リテラシー）等が大切と考えている。生徒に接する教職員の考え方や信念がぶれないように望む。

#### (4) 再編・統合について

- 働き方改革の観点から、新校に係る業務は影響があるか。
  - 両校で一緒に考える部分は時間的には増している。勤務時間に関しては、コロナ禍が明け様々な活動が戻ってきたこともあり、クラブ指導、授業準備、その他業務等を考慮すると減ってはいない。
- 「地域」としてではなく、山寺「地区」として、新校統合に関わる市・県・JR等との話合いに参加してきた。学校運営には関われないが、子どもたちが通う道や駅について考え、見守ることは地区にとっても重要なことと考えているが、伊那北高校の教職員や内部の考え方が見えてこない。統合（新校設立）は100年に一度の大事業ととらえており、垣根を取っ払い一緒に考えていきたい。
  - できること、話せる内容があるときは、声をかけてもらえれば喜んで伺う。
- 再編統合に伴う激動の時期に、高校生に歴史を記録する役割を担ってもらいたい（取材等を行って、映像作品として残すなど）。同窓会にはソフト、ハード両面でサポートできる体制があるので大いに利用してほしい。

#### (5) その他

- CPA教養講座は、単発的な印象を受ける。少人数でも継続的に活動できるものを計画できないか。同窓会としても人材の面で協力できると思う。